

2019年5月14日

## 日化協3賞（安全表彰、技術賞、RC賞）の受賞者決定

—化学産業の更なる発展に向け、優れた取り組みを表彰—

一般社団法人日本化学工業協会

一般社団法人日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：淡輪 敏（三井化学（株）代表取締役社長）、以下「日化協」）は、優れた安全活動を実施し模範となる事業所を表彰する「日化協 安全表彰」、社会全体の発展や環境の改善に大きく寄与した革新的で優れた科学技術や製品の創出を表彰する「日化協 技術賞」、レスポンシブル・ケア（以下「RC」）活動の普及や活性化に貢献した事業所、部門、グループや個人を表彰する「日化協 RC賞」の本年度受賞者を、本日選定いたしました。各賞の詳細につきましては、別紙をご参照ください。

なお、5月24日（金）に、パレスホテル東京（東京都千代田区）において各賞表彰式を行うとともに、以下のとおり各賞の受賞者による受賞講演を開催する予定です。

## ＜受賞講演の予定＞

講演者	講演日	会場
日化協 安全表彰 受賞者	6月14日（金） *「安全シンポジウム」の中で講演	月島社会教育会館 （東京都中央区）
日化協 技術賞 受賞者	6月17日（月）	住友六甲ビル （東京都中央区）
日化協 RC賞 受賞者	6月13日（木） *「RC活動報告会」の中で講演	月島社会教育会館 （東京都中央区）

以上

## ＜本件に関するお問い合わせ先＞

一般社団法人日本化学工業協会 広報部（TEL:03-3297-2555）

日化協 安全表彰、日化協 RC賞について（担当：中野）

日化協 技術賞について（担当：長尾）

## 第 43 回 日化協 安全表彰

### 【安全最優秀賞】

#### 昭和電工株式会社 小山事業所

所在地： 栃木県小山市犬塚 1-480

操業年月日： 1961 年操業開始

主要事業： アルミ製の押出材、自動車部品、OA 機器部品、及びハイブリッド用インバーター冷却機器等の製造

従業員数： 430 名

安全成績： 無災害記録時間 900 万時間、無災害年数 7 年 2 ヶ月（継続中）

主要受賞歴： 厚生労働省第 3 種無災害記録受賞（2018 年）

選定理由： 「安全操業は、社会貢献企業を目指す当社の最重要テーマ」の基本理念を掲げ、全員が協力して安全衛生活動を推進している事業所です。安全活動は徹底した設備の本質安全化による潜在リスクの撲滅と、一方働く人に対しては、危険体感訓練とその後のアンケートによるフォローの P D C A をまわすことで、安全人間づくりの活動を推進し、設備と人の安全操業両面から企業風土、安全文化を確立している。

### 【安全優秀賞（特別：中小規模事業所）】

#### 旭化成メタルズ株式会社 友部工場

所在地： 茨城県笠間市大古山 499 番地

操業年月日： 1974 年操業開始

主要事業： アルミペーストの製造

従業員数： 84 名

安全成績： 無災害記録時間 436 万時間 無災害年数 29 年 7 ヶ月（継続中）

主要受賞歴： 厚生労働大臣優良賞(安全衛生)（2018 年）

### 【安全優秀賞（特別：中小規模事業所）】

#### 昭和ファインセラミックス株式会社

所在地： 長野県塩尻市大字宗賀 1

操業年月日： 2015 年発足（塩尻昭和(株)と名古屋研磨材工業(株)の合併により設立）

主要事業： 研磨微粉の製造

従業員数： 68 名

安全成績： 無災害記録時間 205 万時間 無災害年数 27 年 4 ヶ月（継続中）

【安全優秀賞（特別：中小規模事業所）】

**三井化学東セロ株式会社 安城工場**

所在地：愛知県安城市城ヶ入町団戸 174-3

操業年月日：1972年発足操業開始

主要事業：PP、PEを主とした発砲プラスチックシートの製造

従業員数：52名

安全成績：無災害記録時間 239万時間 無災害年数 21年11ヶ月（継続中）

【安全優秀賞（特別：研究所）】

**三井化学アグロ株式会社 農業化学研究所（野洲地区）**

所在地：滋賀県野洲市市三宅 1358

操業年月日：1939年操業開始

主要事業：農薬の創製研究、農薬試験検討・試験圃場での生物効果検証研究

従業員数：57名

安全成績：無災害記録時間 305万時間 無災害年数 18年（継続中）

主要受賞歴：全国危険物安全協会表彰、湖南防火保安協会賞（2018年）

【安全優秀賞（特別：研究所）】

**JNC株式会社 横浜研究所**

所在地：神奈川県横浜市金沢区大川 5-1

操業年月日：1960年操業開始

主要事業：ライフケミカル分野製品の研究開発、シート培地・診断薬の製造

従業員数：78名

安全成績：無災害記録時間 224万時間 無災害年数 23年7ヶ月（継続中）

<ご参考>

【日化協安全表彰について】

化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、安全の模範となる事業所を表彰する制度で、安全表彰会議が審査します。2019年は第43回を迎え、2018年1月から12月の実績に基づく募集を行い、優れた成績を収める14事業所（内、2研究所を含む）から推薦（応募）をいただきました。審査は、鈴木和彦議長（岡山大学名誉教授）のもと、安全表彰会議において行われ、様々な角度から慎重かつ公平に表彰対象候補を絞り込み、特に優れた6事業所を現地調査事業所として選びました。引き続きこれら事業所を個々に訪問して詳しい現地調査を行い、その結果を安全表彰会議にて報告し、慎重に審議した結果、2019年の今回は安全最優秀賞1事業所、安全優秀（特別）賞5事業所を選考しました。

## 第51回 日化協 技術賞

【総合賞】 独創性に富んだ優れた技術で、かつ科学技術の進歩に寄与したもので、技術として確立しており産業上の価値の高いもの

### 株式会社カネカ

受賞業績： 『カネエース MX』の研究開発と工業化』

業績内容： 熱可塑性樹脂用靱性改良剤として広く使用されてきた多層構造のポリマー粒子（コアシェルゴム粒子；CSR）は、粉体であることからエポキシ樹脂のような液状熱硬化性樹脂においては均一に分散させることが極めて困難であり、工業的にはほとんど適用されていなかった。本技術では、CSRのエマルジョンから粉体を經由せずに一次粒子を熱硬化性樹脂に分散させる独自プロセスを開発した。この新しい分散技術を利用し、CSRの構造設計・制御技術を組み合わせることで、ブタジエン系CSRのエポキシ樹脂マスターバッチ「カネエースMX」の工業化に成功し、エポキシ樹脂においても、CSRによる強靱化が容易に利用できるようになった。より高性能な製品設計が可能となり、構造接着剤、複合材、プリント配線板、塗料などのさまざまな用途に適用され、航空機、自動車、風力発電、建築材料、電気電子などの幅広い分野でグローバルに使用されている。

【技術特別賞】 独創的技術あるいは改良技術で、科学技術の進歩に寄与したもので、比較的規模は小さくとも、独創的で技術的に優れたもの

### 株式会社クレハ

受賞業績： 「高分子量ポリグリコール酸の製造技術開発と新市場開拓」

業績内容： ポリグリコール酸（PGA）は、工業的に量産化する製造技術は存在せず、これまで高価な高付加価値製品（外科手術用縫合糸用途）として少量生産されていたが、本技術では、世界で初めて工業的な製造技術の開発に成功した。この技術開発と同時に、PGAの優れた特性（ガスバリア性、機械強度、加水分解性、生分解性）を活かせる新規用途の開拓を始めた。当初注力した包装材料用途での展開は進まなかったものの、最近では、その機械強度と加水分解性を活かして、シェールオイル・ガスの掘削プロセスで使用されるPGA製機器の採用が広がっており、顧客のコスト削減と生産効率の向上に貢献している。PGAの工業用途市場の占有率は100%であり、2017年度の売上高は28億円に達している。

## 第 13 回 日化協レスポンスブル・ケア賞

### 【日化協 RC 大賞】

#### 花王株式会社 SCM 部門

テーマ： プロセス安全評価による防災活動

活動： 自然発火及び暴走反応について科学的手法を用いた独自の「プロセス安全評価手法」を確立。国内工場に展開し、これらのトラブルを大幅に削減した。

活動の実効を上げるため、評価手法確立では現場での使いやすさに配慮。また、全社横断的な組織を構築して活動を展開するとともに、確立した手法を着実に運用するためのシステム・教育にも力を入れている。

### 【日化協 RC 審査員特別賞】

#### 三菱ガス化学株式会社 新潟工場 第一製造部 第一化成課

テーマ： プラントの外部腐食対策

活動： 日本海からの塩分飛来によって引き起こされる配管の保温材下腐食（CUI）は、外部点検による発見が難しく、異常現象を引き起こす原因となってきた。そこで配管の CUI 懸念箇所を 24 パターンに纏め、其々の腐食発生メカニズムを調査。それを基に保温施工基準の見直しを行うことで、CUI 由来の漏洩を撲滅することに成功している。製造現場の地道な小集団活動がボトムアップにより展開され、大きな成果を挙げた好例である。

### 【日化協 RC 審査員特別賞】

#### 住友化学株式会社 レスポンスブルケア部（気候変動対応）

テーマ： 持続可能な低炭素社会への新たな挑戦

活動： 低炭素社会実現に向けて、事業所の省エネを進め、原単位を大幅に削減した。また、パリ協定の 2℃目標達成に貢献可能な製品や技術を推進するため、それらを“Sumika Sustainable Solutions (SSS)”として認定する制度をスタートさせ、更に TCFD\* 提言の支持、SBT\* 認定取得などを行ってきた。化学産業が社会にとって本当に必要な産業であることを積極的に発信できる極めて質の高い活動である。

\* TCFD : Task Force on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)

\* SBT : Science Based Targets (科学と整合した目標設定)

### 【日化協 RC 優秀賞】

#### J S R 株式会社 千葉工場

テーマ： J S R (株) 千葉工場の安全文化の醸成活動

活動： ベテラン社員が労災・ヒヤリハットの体験を伝える「語り部活動」や最新の映像技術を使った「VR\* 体感教育」を行い、従業員の安全感性を醸成。また安全文化・基盤の強化を狙い、第三者による保安力評価を受審。更に、災害発生時の初動対応を迅速化

するために、災害情報支援ソフトを構築するなど、さまざまな手法を用いて多面的に安全文化の醸成を図った。

\* VR : Virtual Reality (バーチャル・リアリティ)

#### 【日化協 RC 優秀賞】

##### 徳山積水工業株式会社

テーマ： 徳山積水工業(株)における自然保護活動

活動： 地域に密着した環境保全活動として、2000年より周南市から借り受けた市有林(2,500m<sup>2</sup>)で「積水の森整備活動」を、2009年から「周南市西緑地公園整備活動」を、更に2014年からは「栄谷市有林整備作業(18,200m<sup>2</sup>)」を実施。18年以上にわたり行政や地域社会と連携して自然保護活動を展開し、「地域社会への貢献」も果たしている。

#### 【日化協 RC 優秀賞】

##### 三菱ケミカル株式会社 茨城事業所 環境安全部

テーマ： 危険予知力向上に向けた取り組みと基本操作の定着

活動： 過去の災害を解析し、その主因は危険予知の不足、及び基本行動や基本操作の不徹底によるもの、との結論を得た。そこで、基本操作集の作成、4RKY\* 教育を通じた危険予知活動やKY\* 大会の実施、HH\* 活動の活性化などに取り組み、基本の徹底、危険に対する感性のアップなどを図っている。活動を進めるにあたり「仕組みを使う人・心」に着目し、基本的な安全活動に「志、共感、達成感、やりがい」を織り込んでおり、他社が大いに参考に出来る活動となっている。

\* 4RKY： 4ラウンド 危険予知、\* KY： 危険予知、\* HH： ヒヤリハット

#### 【日化協 RC 努力賞】

##### 住友ベークライト株式会社 静岡工場 ビオトープ委員会

テーマ： 静岡工場における環境保全とビオトープの活用による地域貢献活動の取り組み

活動： 静岡工場の生態系調査を実施し、絶滅危惧種であるミナミメダカや貴重種を確認。そこで、保全・復元目標を掲げビオトープを造成して、生物多様性保全を進めた。7年以上にわたるこの環境保護活動の中で、従業員向けの環境教育を実施したり、ミナミメダカの提供などを通して地域社会へ貢献したり、地域とのコミュニケーションを図ったりしている。

#### 【日化協 RC 努力賞】

##### 日産化学株式会社 富山工場

テーマ： 日産化学株式会社富山工場における 環境保全 及び 気候変動対策

活動： アンモニアやメラミンの製造に必要な原燃料を、重油・ナフサから天然ガスに転換。また硝酸の操業条件を適正化。これらにより温室効果ガスを大幅に削減し、SO<sub>x</sub>は半減、PRTR\* 対象物質は1/3に、そしてベンゼンの大気排出量はゼロにした。更に、天然ガスを高压で受け入れることでガス圧縮機を不要とし、動力削減にも努めた。

\* PRTR : Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)

<ご参考>

【日化協レスポンシブル・ケア（RC）賞選考基準】

- ・ RCの6コード（保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全）に関する活動で顕著な成績を残したもの
- ・ 企業内のRC活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献のあったもの
- ・ RCの海外活動に貢献したもの

【レスポンシブル・ケアとは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・健康・安全」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・健康・安全を規制だけで確保していくことは難しくなっています。換言すると、環境・健康・安全を確保していくために「化学製品を扱う事業者が責任ある自主的な行動をとること」が今まで以上に求められる時代となっている、と言えます。

こうした背景を踏まえて、化学業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う、という活動に取り組んでいます。この活動を“レスポンシブル・ケア”と呼んでいます。

レスポンシブル・ケアは1985年にカナダで誕生しました。1989年に国際化学工業協会協議会（I C C A）が設立され、レスポンシブル・ケアを通じた安全・環境の向上への取り組みと社会との対話とを所属各国協会が協力して行うとともに、レスポンシブル・ケアを途上国等に普及させる活動を行っています。今やレスポンシブル・ケアは、世界60以上の国と地域（2018年4月現在）で展開されています。